

ヴァーボン・ストリート・ブルース

高田 渡&ヒルトップ・ストリングス・バンド

① ヴァーボン・ストリート・ブルース
高田 渡: 作詞/ASSUNTON: 作曲

② 夜汽車のブルース
三橋 敏: 作詞・作曲

③ ウィスキーの唄
朝比奈 凌人: 作詞・作曲

④ シングナルは青に変わり汽車は出てゆく
小林 清: 作詞・作曲

⑤ G・M・S(グラフィス・マンドリン・ソサエティ)
アメリカ民謡/高田 渡・佐久間順平: 編曲

⑥ その向こうの
佐久間順平: 作詞/VICTOR YOUNG-WILL J. HARRIS

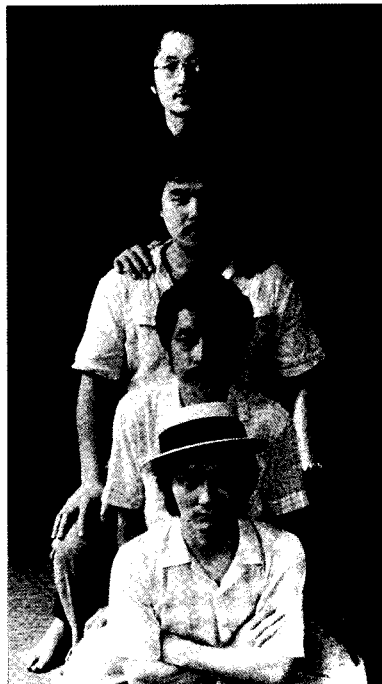
⑦ ダイナ
サトウハチロー: 作詞/HARRY AKST

⑧ 猿股の唄
金子光晴: 作詞/佐久間順平: 作曲

⑨ 座蒲団
山之口 義: 作詞/高田 渡: 作曲

⑩ すかんば(哀れな草)
リングルナッツ: 作詞/高田 渡: 作曲

⑪ リンゴの木の下でドミニクは世界の日の出を待っていた
(IN THE SHADE OF THE OLD APPLE TREE)
HARRY H. WILLIAMS: 作詞/EGBERT VAN ALSTYNE: 作曲
(訳) 柏木みのる
(DOMINIQUE) SOURIRE SDEUR: 作曲
(THE WORLD IS WAITING FOR THE SUNRISE)
ERNEST SEITZ: 作曲



ヴァーボン・ストリート・ブルース
高田 渡
& ヒルトップ・ストリングス・バンド

Producer/小室 等
Director/三浦光紀・早川治久
Mixer & Mastering Engineer/伊藤史夫
Art Director & Illustrator/小島 武
(Illustration: シリーズ "SAYONARA" より)
Photographer/宇都宮孝郎
Recording Studio/ONKIO HAUSE
Recording Date/6JUN・13JUN 1977

① ヴァーボン・ストリート・ブルース

高田 渡:作詞/ASSUNTON:作曲

* 抜けるような空の下で オイラ唄う
ヴァーボン・ストリートのブルースを お前の為に
オイラ いつかお前を見つけて
一緒に唄うのさ ヴァーボン・ストリートのブルース

扉を叩く音がする その度に
いつもそばに寄るのだが
そこにいるのは風だけさ
いつか大きな 大きな風でも起きて
早くあの娘を 連れて来ておくれ

* Repeat

Vo・G/高田渡
Ma/佐久間順平
Bj/小林清
B/大庭昌浩

Trumpet/外山喜雄
Clarinet/後藤雅広
Trombone/池田幸太郎

② 夜汽車のブルース

三橋 誠:作詞・作曲

呼んでるよ 呼んでるよ 夜汽車がさ
呼んでるよ 何処へ行くのかね
夜汽車に 揺られて

行きたかないね 何処へもさ 何処へもさ
行きたかないね でも永く三鷹辺りにやいられない
で 夜汽車に 揺られて

何処へでも 何処へでも 行くだろうさ
何処へでも 誰と行くのかね
夜汽車に 揺られて

呼んでるよ 呼んでるよ 夜汽車がさ
呼んでるよ 何処へ誰と行くのかね
で 夜汽車に 揺られて

Vo・G/高田渡
Ma/佐久間順平
Bj/小林清
B/大庭昌浩

Trumpet/外山喜雄
Clarinet/後藤雅広
Trombone/池田幸太郎

③ ウイスキーの唄

朝比奈逸人:作詞・作曲

* ウイスキーを おくれ ウイスキーおくれ
ウイスキーがなけりや 夜も明けぬ
ウイスキーおくれ ウイスキーおくれ
ウイスキーがなけりや 死んでやる

熱い喉を抜けると そこは極楽さ
嬉しかろうか 寂しかろうか
ウイスキー ウイスキー そら行くぞ
ウイスキーが オイラを放っておくもんか

腹が減れば ウイスキーさ
泳ぎたくなりや ウイスキーさ
ウイスキー ウイスキー 殺しておくれ
死ななきゃ 死ぬまで 生きてやる

* Repeat

Vo・G/高田渡

④ シグナルは青に変わり汽車は出てゆく

小林 清:作詞・作曲

* シグナルは青に変わり 汽車は出て行く
もう こんな遠くまで来てしまった
遠い 遠い

シグナルは 青に変わり 僕は子供に帰る
星のレールを 引いてくれたら 約束するよ
帰ってくと

ねえ 君の声が泣いてるよ
もっと 強く生きなくちゃ
吠えろ 吠えろ 汽車はもっと
力強いもんさ

大空を 汽車は走る
すべてを忘れて 走る
遠吠えを くり返し
走る 走る 走る

* Repeat

Vo・Bj/小林清
Vi/佐久間順平
Autoharp/高田渡
B/大庭昌浩
Clarinet/後藤雅広
Bandoneon/池田光夫

5 G・M・S(グラフィス・マンドリン・ソサエティ)

アメリカ民謡 高田 渡・佐久間順平:編曲

Ma/高田渡
Bouzouke/佐久間順平
G/小林清
B/大庭昌浩

6 その向こうの

佐久間順平:作詞/VICTOR YOUNG-WILL J.HARRIS

その向こうの 山の影に立ち	その向こうの 波の間に向かい
大声をはりあげ 叫ぶ お前に	声も立てず 叫ぶ お前に
早く 早く 死んでしまえと	早く 早く 帰って来いと
一日中 一晩中 叫ぶ	一日中 一晩中 叫ぶ
お前に	お前に
	一日中 一晩中 叫ぶ
	お前に

Vo・G/佐久間順平
B/大庭昌浩

Trumpet/外山喜雄
Clarinet/後藤雅広
Trombone/池田幸太郎

7 ダイナ

サトウハチロー:作詞/HARRY AKST

ダンナ 飲ませて頂戴な 奢って頂戴な 多んとは呑まない	ダンナ 私の恋人 美しい瞳
ダンナ 盃頂戴な コップならなお結構	思い出すだけで 体がうずくよ
こいつはいける	ダンナ 私のいい人 やさしい口元
酒はうまいまい 少し酔った	忘れはしません
酔ったら さあ来い	思えば楽しい夜を 何度過ごしてきたことか
ダンナ 飲ませて頂戴な けちけちなさんな	ダンナ 私の恋人 もう一度だけ
かけつけ 三杯	私の元へ

ダンナ 殴って頂戴な つねって頂戴な
心のままよ
ダンナ 蹴飛ばして頂戴な ぶん殴って頂戴な
わしや泣きません
君が何をしようと 心のままよ
勝手にしやがれ
ダンナ 横ピンタ頂戴な はっ飛ばして頂戴な
心が晴れる

Vo・G/佐久間順平
Ma/高田渡
Bj/小林清
B/大庭昌浩

Trumpet/外山喜雄
Clarinet/後藤雅広
Trombone/池田幸太郎

8 猿股の唄

金子光晴：作詞／佐久間順平：作曲

父と子が二人で一枚の
猿股しか持っていないので
かわりばんこに穿いて外に出る
この貧乏は東洋風だ

父の臍には巻毛があり
子の臍には産毛
父には何十年過ぎてこの貧乏
子には何十年を控えてこの貧乏

父が死んだので子は前よりも豊かになった
二人で一つの猿股が一人の物になったからだ
だが 子供が水浴びしてるとき
蟹が猿股を引いていったので
子は誰よりも貧乏な無一物となり果てた
そして子は毎晩夢にみた
失った猿股の行方を
誰かが それを穿いて世間の何処かに行く様を

子は知った猿股なしでは
泥棒や乞食にもなれないと
猿股なしでは人前に
自分の死に様も晒せない

子よ 貧乏なんか恐れるな
岸伝いに行く女の子を
水から首だけ出して首だけ出して
見送る 子よ

必ず 丸裸で追いかける
丸裸で追いかける
それが君の君の革命的なだよ

Vo・G／佐久間順平 Ukulele／小林清
Ma／高田渡 B／大庭昌浩

9 座蒲団

山之口鏡：作詞／高田 渡：作曲

* 土の上には 床がある
床の上には 畳がある
畳の上にあるのが 座蒲団で
その上にあるのが楽という
楽の上には なんにも無いのでしょうか

どうぞ おしきなさいとすめられて
楽に坐る 淋しさよ

上の世界を遙かに見下しているかのように
住み慣れぬ世界が淋しいよ

* Repeat

Vo・G／高田渡

10 すかんぼ(哀れな草)

リングルナッツ：作詞／高田 渡：作曲

* 土堤の上で すかんぼは
レールの間に 生きていた
急行ごとに気を付けをし
人の旅するのを眺めていた
埃にまみれ 煙を吸い
肺をわずらい うらぶれた
哀れなすかんぼ弱い草
目もあり 心もあり 耳もある

汽車は去り 汽車は出て行く
哀れなすかんぼ
哀れなすかんぼは
鉄道ばかり 見て過ごし
鉄道ばかり 見て過ごし
いつしか 汽船を見ることもなし

* Repeat

Vo・G／高田渡 B／大庭昌浩
Vi／佐久間順平 Bandoneon／池田光夫

11 リンゴの木の下でドミニクは世界の日の出を持っていた

(IN THE SHADE OF THE OLD APPLE TREE)
HARRY H. WILLIAMS: 作詞 / EGBERT VAN ALSTYNE: 作曲
(訳) 柏木みのる
(DOMINIQUE) SOURIRE SDEUR: 作曲
(THE WORLD IS WAITING FOR THE SUNRISE)
ERNEST SEITZ: 作曲

リンゴの木の下で 明日また逢いましょう

黄昏赤い夕日 西に沈む頃に

優しく頬よせて 愛をささやきましょう

真紅に燃える思い リンゴの実のように

Vo・Bj / 小林清 Trumpet / 外山喜雄
Ukulele・G / 高田渡 Clarinet / 後藤雅広
Ukulele・Ma / 佐久間順平 Trombone / 池田幸太郎
B / 大庭昌浩



『ヒルトップ・ストリングス・バンド』のことは、高田渡と他3名だけが知っている。

バンドの名は、東京・お茶の水にある〈ヒルトップ・ホテル〉から拝借した。〈ヒルトップ〉は丘の意味。知る人ぞ知るクラシックなホテルで昔は文士が常連にし、ここから原稿を出していたという。

結成というか、湧き出したのは1975年?頃だと思う。当時テキシー・ランド・ジャズに狂っていたテナー・バンジョーの小林清君、でその友達でベースの大庭昌浩君、そしてボク・高田渡、何んでも演れる佐久間順平君。

なんか面白いの演ろうよ!とオリジナル四人衆の出来上がり。

いろんな所へ行った。『ヒルトップ・ストリングス・バンド』はいつも8~10台程の楽器を持ち歩いた。バンドボーイ、マネージャーも無しで、この楽器達を両脇にかかえ、日本中を旅した。

ギリシャ映画『旅芸人の記録』そのままの道中。まだ若かったから(ボク28才、皆んなはもっと若い)、明るかった、元気だった。クラリネットの後藤雅之さんとよく一緒にした。

『ヒルトップ・ストリングス・バンド』はすでに出来あがっていた。(ヴァーボン・ストリート・ブルース)の録音は、かぶせかほとんどなく、一発どりだった。2・3回でOKである。3日で終わった、最後の一日はトラックダウン。

1977年にLPで発売された。しばらくすると市場から消えていた。バンドは1980年頃まで続いただろうか。今、皆んなはそれぞれの場でガンバっている。

あれから、15年。LPがCDに変わった。LP党のボクとしてはCDなんか物足りない。だが、これが時代というものか。

1992年9月25日

高田 渡